

自由民主党豊橋市議団
豊田一雄市政レポート

2017年春 第27号
豊かさを未来へ!
<http://toyo.pbeins.net/>

ますな



発行:自由民主党豊橋市議団

連絡先:豊田一雄 豊橋市多米西町三丁目2-10 TEL・FAX 64-6147 Email toyoda-kazuo@toyohashi-shigikai.com

市政懇談会案内

7月2日(日)17:00~18:30に

東陽地区市民館にて豊田一雄市政懇談会を行います。
お気軽にご参加下さい。



豊橋市議会議員 豊田一雄

豊橋市内初の道の駅建設着手

~名豊道路七根IC周辺~

豊橋市内で初めての道の駅となる、道の駅「(仮称)とよはし」の整備が平成29年度から始まります。コンセプトは、新鮮で質の高い農産物等を、『見て』・『買って』・『味わい』・『楽しむ』こと。地域ブランドや広域観光情報を国内外に発信する産業振興の拠点とし、併せて地域福祉や防災活動の拠点とも位置付けるものです。場所は名豊道路の七根インターチェンジ横で、JAの食彩村を核としてその周辺に作られます。



29年度には地域振興施設の設計や防災施設用地の造成等を行い、開駅は平成31年春の予定となっています。

東三河では初めての重点「道の駅」に選定

この施設は平成27年度に国土交通省から重点「道の駅」に選定されました。東三河では初となります。選定されたポイントは以下の三点。

【防災拠点】

南海トラフ地震等に備えるため、「道の駅」を『豊橋市地域防災計画』に位置付け、防災活動拠点として整備します。太陽電池・蓄電池・管理装置等を設置、物資等の備蓄倉庫を整備するとともに、大規模災害時には屋内を救援部隊の合同指揮本部とし、屋外は救援部隊の一時集結ベースキャンプの場とします。

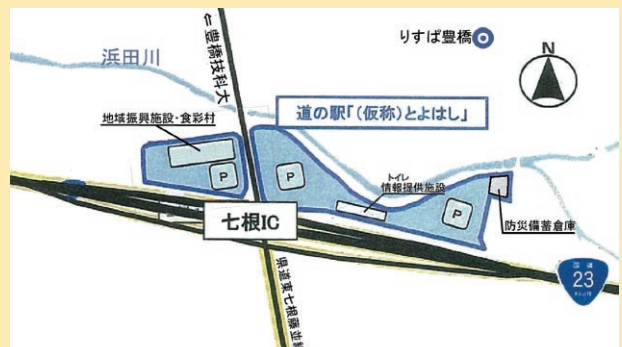
【地域福祉】

「道の駅」において、高齢者の参画する交流イベントの開催や、買い物・飲食・休憩(交流)等日常生活を支援するとともに、「道の駅」と福祉関連施設をコミュニティバスや路線バスで結ぶことで地域福祉を推進します。プロジェクト施設

では健康長寿教室等を開講します。

【産業振興】

大学等と連携し、若者・女性など次世代の農業者等のスキルアップ、農家と地元企業等が連携した「道の駅限定おみやげ開発プロジェクト(6次産業化)」による地産地消を進める商品づくりを進めます。



— <新しい注目施策など> —

空家等対策計画を策定

今年3月、豊橋市空家等対策計画が策定されました。人口減少の進行や社会構造の変化などにより豊橋市においても空家が増加しています。適正に管理されていない空家が周辺の生活環境へ悪影響を及ぼすということも増えています。

そこで、行政・市民・地域が連携し解決方法を考えながら力を合わせて取り組むため、空家等対策を総合的に進めることを目指しています。

目標年次は平成38年度とし、管理が不適切な空家等を昨年末の169件から50件まで減らすなどの目標に向け、以下の三つの方針に基づいて施策を行います。

【適切な管理の促進】

管理が不適切な空家等の情報をデータベース

化し活用します。対策としては、所有者等に対する管理ノウハウ等の助言、保安上危険な空家等の補助制度による解体促進などです。再三にわたる指導後も改善されない場合には特定空家等として勧告さらには命令なども行います。

【利活用の促進】

所有者の意向と利用希望者のニーズのマッチング、空家バンク等による利活用の促進、住宅以外の新たな利活用方策の開拓などを行います。

【利用目的のない空家の増加抑制】

空家等の発生予防・抑制のための啓発を行うとともに、様々な分野にまたがる相談等に対応できる体制の充実を図ります。



新アリーナ構想について

豊橋市では2020年代はじめの建設を目指して、新アリーナの検討を始めています。人口減少や高齢化が進む中で、市内に人を呼び込み地域経済発展の起爆剤とするためです。29年度豊橋市予算では、多目的屋内施設検討調査事業費として40万円を計上しています。新アリーナのコンセプトは以下の5点です。

1. 「スポーツを観る」「楽しむ」ための空間＝

Bリーグ、コンサートなど「観る」「楽しむ」を提供。

2. プロフィットセンター化＝民間の整備・運営ノウハウを活用し、収益性を確保。（コンセッションも視野に検討） ※コンセッション＝料金徴収を伴う公共施設などについて、施設の所有権を発注者（公的機関）に残したまま、運営を特別目的会社として設立される民間事業者が

行う方式。

3. 好アクセス＝既存インフラと連携したまちなか立地
4. 広域集客＝国内外からの幅広い集客。
5. 需要喚起のハブ＝来訪者による地域内の消費拡大。

3月24日、安倍総理大臣を議長とする未来投資会議に佐原豊橋市長が出席しこの構想を報告。
 ①新アリーナを核としたまちの活性化に関する支援の充実、②民間投資への税や資金調達に対する支援、③都市公園において民間事業者によ

る柔軟な施設運営を可能とする制度の整備、などを要望しました。



新アリーナのイメージ

浜松三ヶ日・豊橋道路が一步前進

前号で報告した通り、東名高速三ヶ日ジャンクションと名豊道路を結ぶ浜松三ヶ日・豊橋道路の実現に向けて、豊橋市や自由民主党豊橋市議団などが連携して要望活動を行ってきました。そして、今年の3月23日に行われた静岡・愛知県境道路に関する連絡会では、広域的な道路ネットワークの必要性が取りまとめられました。

この結果を受けて、平成29年度より広域的な道路ネットワークとして求められる機能の検討が国の直轄調査として実施されることが3月29日に決定されました。この調査では概ねの起終点・経過地等の求められる機能の検討が行われることとなります。大きく一步前進したと考えます。

公共施設等総合管理計画・立地適正化計画を策定

急速に進む人口減少や高齢化により、財政は厳しさを増すことが予想されています。その対応策として、公共施設等総合管理方針と立地適正化計画(都市機能誘導区域編)が3月に策定されました。

【公共施設等総合管理方針】

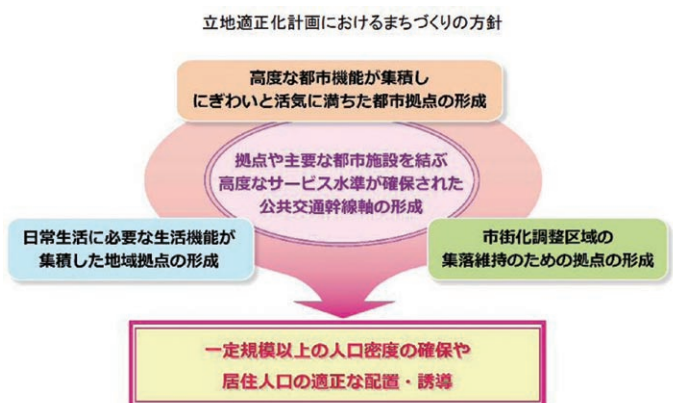
高度経済成長期に整備した建物とインフラは更新時期を迎え、少子高齢化の進行は利用需要に変化をもたらしています。本方針では、市が保有する建物や道路・橋りょうなどの公共施設等について、統廃合の推進や長寿命化など、その最適化に向けて長期的かつ総合的な管理の方針を定めたものです。

【立地適正化計画(都市機能誘導区域編)】

本計画は、まちの将来の姿を「歩いて暮らせるまち」「暮らしやすいまち」「持続可能なまち」と捉え、立地適正化計画に関する基本的な方針

と都市機能誘導区域に関する事項を中心に、都市機能誘導区域編としてまとめたものです。

都市機能誘導区域としては、豊橋駅周辺、南栄駅周辺、二川駅周辺、井原停留所周辺、藤沢町周辺としています。居住誘導区域も含めた全体計画については、平成30年までに策定する予定です。



副議長としての豊田一雄の主な活動

市議会の本会議で、議員が市政に関することを何でも聞くことができるのが一般質問です。これまでその質問方式が豊橋市議会では一括方式ということになっていました。議員が複数の質問をして、それに対して当局はまとめて答弁するというものです。それが昨年12月から一問一答方式でもいいということになりました。1回目は一括方式と変わりませんが、2回目からは質問一つする都度答弁するというものです。傍聴する方などに解りやすくするためですが、

議長としては運営が難しくなります。一括方式では質問回数が3回までと制限されていたものが、一問一答方式では無制限になるためです。質問が通告の範囲から外れてしまったり同じ質問の繰り返しになったりする可能性が高くなります。そうならないように12月議会3月議会ともに今まで以上に緊張して議長席に座りました。

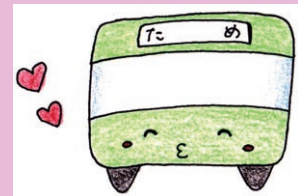


多米の地域情報

多米校区内を走る豊鉄バスの飯村・岩崎線の路線が、今年10月から一部変更になります。従来の赤岩口行きは変わりませんが(一部停留所の移動があります)、多米峠口行きが無くなります。終点付近でのバスの待機場所が確保できなくなったためです。それに代わって新たな多米東町方面を通る路線ができる予定です。

新しい路線は、医療センター方面から鞍掛神社横を通り、突き当りを東方向に右折します。その後、ホテルポストン横の信号を左折し、春

日神社横を通り多米街道の信号を左折し赤岩口に向かいます。東町方面の方が赤岩口までバスで行けるようになる他、通勤や通学に使える時間帯の便が増えるとともに豊橋駅前発の最終便が21時30分になり、利便性が増すはずですが、バス路線を守り育てるために地域の力が必要です。ご協力をお願いします。



豊橋市議会会派

自由民主党豊橋市議団だより

家庭教育支援条例を議員提案

自由民主党豊橋市議団では、今年の3月定例議会に家庭教育支援条例を議員提案し、公明党豊橋市議団、まちフォーラムと一部諸派の賛同を得て可決されました。

子どもの成長にとって家庭教育が重要なものでありながら、近年、家族形態の多様な家庭を取り巻く環境が大きく変わってきて

います。そこで、行政、学校等、地域住民、地域活動団体、事業者などが、家庭教育の自主性を尊重しつつ、適切に役割分担し一体となった支援を目指す条例です。

※29年度の自民党豊橋市議団執行部として、古関充宏団長、豊田一雄政調会長などが選任されました。